畫報躍進之日本

昭和十二年三月三日第三種郵便物認可
昭和十六年十一月三十日印刷納本
昭和十六年十二月七日發行
第六巻・第十二號（毎月一回一日發行）

第六巻 第十二號

特輯 アメリカの資源と膨張地圖
アメリカの宣傳倒れの陸軍

東京 東洋文化協會 發行

Published by
THE TOYO BUNKWA KYOKWAI.
Tokyo. Nippon.
VOL. 6 No. 12

第十二號「畫報躍進之日本」第六巻

昭和十二年三月三日第三種郵便物認可
昭和十六年十一月三十日印刷納本
昭和十六年十二月七日發行
毎月一回一日發行

會員募集

幕末明治大正 回顧八十年史

絶世の教育資料

過去八十年間の一切を活寫せる我一億同胞待望の大史錄

明治維新の成りて天皇親政の下に豪快無比なる大行進曲を奏しつゝ世界に濶步せる新日本過去八十年の雄姿は須らく是を本史に見よ！　我等の父祖が幕末の非常時に際して金剛不退轉の一大決心を以つて萬難を排し荊棘の道を拓き躍進又躍進、一路國運發展に邁進せる其業蹟こそは今や昭和維新に當つて吾人の再檢討すべきものではないか？　昭和日本が國際的孤立にあり尙且つ前途多難なる道程を辿らんとする秋に當りて全世界に誇るべき崇高なる日本精神の全貌を明かにせる本史こそは、現下の時局に際し此非常時突破の冲天の意氣に燃ゆる我が一億同胞の一人一人に捧ぐべき『魂の書』であり又『永遠の生命の書』と云ふを憚らない。

稿を嘉永六年ペルリの渡來に起して大正十五年に終るもの、其間の波瀾重疊たりし一切の史實は擧げて本史にあり、我等の父祖が愛國の至誠に燃え、白刃を冒し鮮血を浴びて挺身國難に殉ぜる壯烈なる狀景は眞に躍如として紙上にあり、苟も一片の行文、一個の寫眞と雖も、我等が父祖の情熱を脈搏に傳へざるはない。

本協會は非常なる努力と巨費とを費やして資料を遠近に集むる事、玆に十年、其數實に五千を越え、而も悉く當時の刊行物、寫眞及び繪畫類にして世上稀覯の逸品、今是を基礎として本史を編む、眞に是新日本過去八十年の活歷史、獨り史實に止まらず風景・風俗の微に至る迄之を網めて後昆に殘さんとするものである。本史は刊以來江湖の絶讚颶風の如く昭和出版界の王座を占むる未曾有の大文獻として日夜聲譽を嵩めつゝあるは、如何に本史が優秀なるかを立證するもので、眞に是れ努力十年の結晶たるが故である。

本會は敢て本史を我が一億同胞に推奬す。國民精神を作興せしめ、苦難に處して驚かず、治に居て亂を忘れず、萬國無比なる日本國民たるの光榮を强く自覺せしむるものである。今や世相險惡、思想浮薄に流るゝの秋にあたりて、之を備へて子弟の教導たり又讀書子の座右の秘寶たらしむべく、江湖諸賢の希望に答へて、玆に至廉なる價格を以て本史を頒布せんとす。

本史は全國各戶の必備書

政治家諸氏 國運進展の動向は國民思想の變移による。來るべき思潮の動向を夙知して思想對策を練るは其事である。本史は過去八十年間に先覺の士が如何に巧妙に此間に處したか、一切の經緯を揭げ がない。

教育家諸氏 恐らく教授上の參考書としては本史に優るものはない。若し諸氏が個人として此種の資料を蒐集せらるゝならば恐らくは時間と巨費とを要して尙且つ徒勞に終るに過ぎない。文字で又言葉で理解せしめられない樣なものも本史では皆寫眞繪畫で示してある。眞に教育上の百科辭典である。

史家・研究家 獨り國史と云はず恐らく諸氏が苦心して探して居られるものが本史には當時の寫眞又は繪畫である。そして、本史が如何に諸氏の研究に多大な貢獻を致すかは殆ど玆に贅言を要しない。

軍人諸君 現役、退役を問はず、諸君の功績が如何に國民に影響し、又國民思想の變動が軍事國防に反映するかの前例が本史にあり、而して現時の思想對策に資する所が多い。

一般家庭 藏書の善惡は其家庭を知る尺度である。本史が獨り書齋の秘寶たるのみならず又子弟教化の良參考書たるは言を待たない。餘庭の世相に痛心する諸賢は本史によつて家庭が國家に如何に密接なる關係を有するか檢討せられたい。

● 其他、銀行、會社、官衙、各團體等苟も非常時日本に關心するものに本書を推奬す ●

珍重すべき寫眞・精細なる說明・斷じて他の追隨を許さず

正確なる史實と津々たる興趣との一大交響樂にして又知識の寶庫

月次刊行の內容

◎**第一輯 第二輯** 嘉永六年、米艦ペルリの琉球訪問、浦賀入港より筆を起しプチャーチンを始め幕末の外交より神奈川條約、遣米使節の派遣等。此前後に於ける內治外交風俗の一切を收む。

◎**第三輯 第四輯** 櫻田事變より新選組の活躍、寺田屋、池田屋事變を始め、生麥事變、英船の鹿兒島灣攻擊より大政奉還、戊辰の役及び五稜廓の戰に至る迄幕末後期の急轉直下せる世相を描き、憂國の志士が自若として新日本建設の礎石となれる壯烈なる事蹟を收む。

◎**第五輯 第六輯** 明治改元っ大詔渙發より泰西文化は洪水の如く日本に流入して郵便電信を始め鐵道の建設、交通の發達より延いては新舊思想の衝突より國會開設の要望に至る最も興味ある明治初年の狀景を躍如たらしめたり。

◎**第七輯 第八輯** 征韓論より始めて西鄕隆盛の引退、西南役に至り凄慘たる戰役後の實寫寫眞を我國寫眞界の鼻祖上野彥馬の原版を以つて紹介せるを始とし神風連、加波山事件、自由民權論の勃興、板垣退助遭難前後の狀況より鹿鳴館の舞踏會憲法發布、帝國議會開院式、大津事件、濃美大地震に至る世相の變遷を示す。

◎**第九輯 第十輯** 郡島中佐のシベリヤ單騎橫斷、郡司大尉の千島探險より日淸戰役の全般を收め、平壤玄武門、黃海海戰、軍艦赤城の苦戰、定遠、鎭遠の最期、春帆樓上の講和談判、臺灣戡定を始め三陸大海嘯、硯友社の創立、救世軍の渡來等此戰役を中心として活躍せる各方面の史料を輯む。

◎**第十一輯 第十二輯** 英照皇太后の御大葬より奠都三十年祝典、大正天皇の御成婚より北淸事變の全貌を收め、萬國郵便聯合二十五年祝典、廢娼運動、鑛毒事件日英同盟、第五回內國勸業博覽會等明治中期の世相を紙上に躍如たらしむ。

◎**第十三輯 第十四輯** 本輯を擧げて日露戰役に始終する。即ち國交斷絕の始めより橫川、沖兩士の忠死、其遺書及び其銃後の悲壯なる寫眞を始め陸海軍の活躍より日露講和會議、講和の正文、講和反對の國民大會等、國民の意氣冲天の勢を以つて國運伸展の爲大活躍せし明治の最盛期を收む。

◎**第十五輯 第十六輯** 大正天皇の御踐祚より伊藤公の遭難、日韓合邦前後の狀況、第六潛水艇の沈沒、日英博覽會等より明治大帝の最後の陸海軍御統監、御不例御發表より御大葬に至る迄の狀況を收めて光輝燦然たりし明治期は本輯をもつて終結。

◎**第十七輯 第十八輯** 大正元年の陸軍大演習、憲政擁護運動を始め、此年を以つて始まれる米國の邦人排斥、德田、木村兩中尉、武石浩波氏等の我飛行界に對する貴重なる犧牲、櫻島の大爆發、シーメンス事件、臺神宮事業、明治神宮の鎭座祭、立太子禮、極東オリンピック大會等を收む。

◎**第十九輯 第二十輯** 本輯を擧げて是を世界大戰の前後に始終し勃發の當時より尼港事變、華府會議に至り世界五大强國の一として國際場裡に濶步せる大正日本の雄姿一切を收む。

◎**第二十一輯 第二十二輯** 今上陛下の御外遊を始めとし英太子の來朝、日露協商より關東大震災に至る大正中期の一大試錬期を活寫して餘蘊なし。

◎**第二十三輯 第二十四輯** 今上陛下の御成婚を始め全國を風靡したる水平運動、日本の財政的危機を見て强行せる米國の侮日的排日法案の通過、普選問題より大正天皇の御大葬に至る一切と昭和維新に向はんとする趨勢を收めて我『回顧八十年史』は玆に完結す。

以上全輯を通じて收錄する所の寫眞、繪畫、挿畫類は實に總數五千を超え、記事五百四十頁、寫眞頁と相對照して精細を極む、正に過去八十年間の大綜合歷史にして又我三朝に渉る最大の文化史である。

本史の體裁

大きさ 『躍進之日本』と同じ大きさ
印刷 口繪、高級美術原色版、寫眞頁、最新式玻璃版、オフセット二色版
記事 九ポイント活字、印刷鮮明、挿畫カット豐富
紙質 舶來上質紙
●大年表● 精細なる明治及び大正大年表添附

頒布の方法

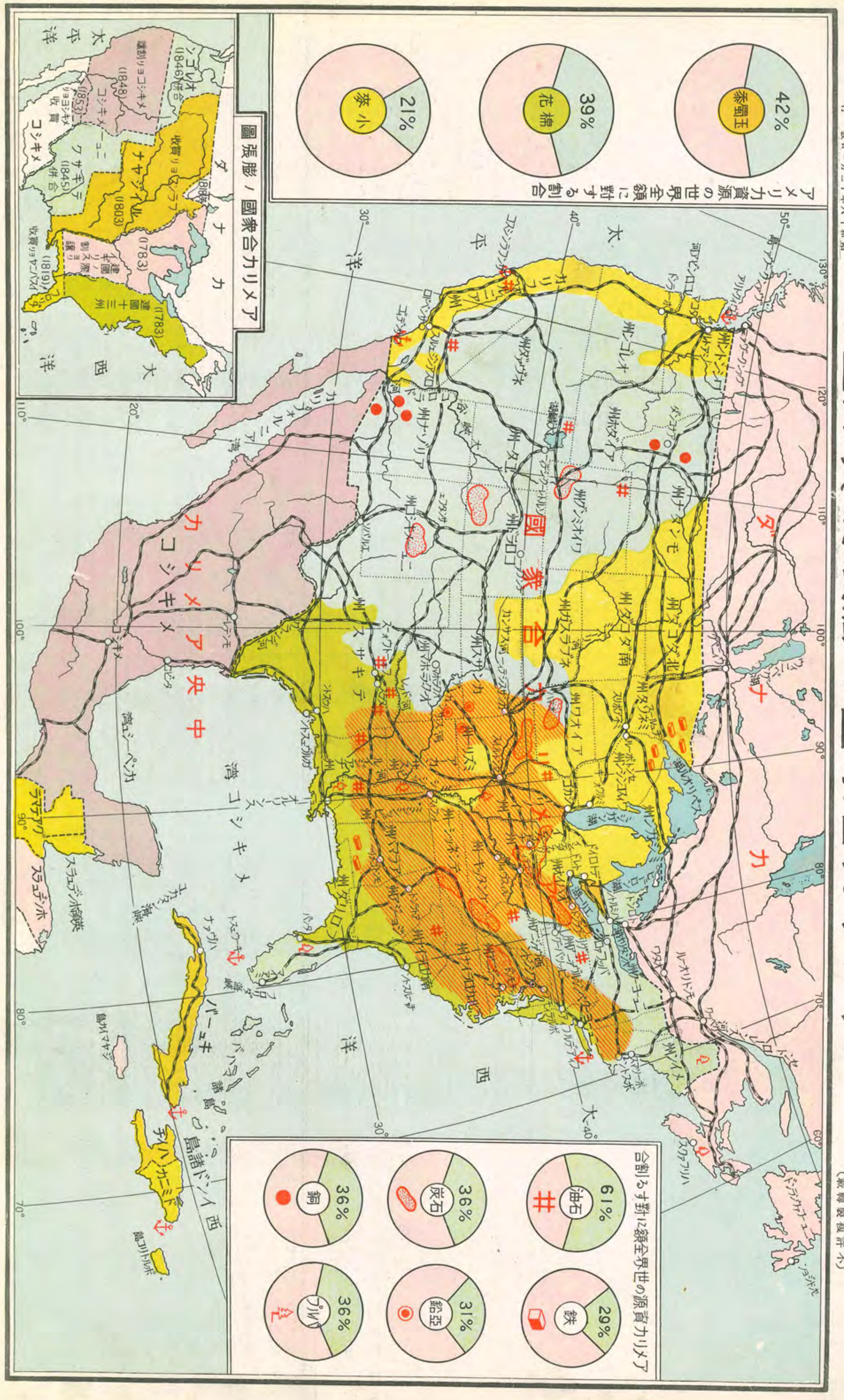
會費 月額 金壹圓參拾錢
本史を廿四回に頒布するものとす。
表紙 綴込用表紙、特製穀子製金箔押し（金壹圓）

非常時日本に捧ぐる至寶の文獻・果然天下の耳目は本史に集る!!

發行所 東洋文化協會
東京市京橋區銀座五丁目四番地
電話銀座(57)七〇四〇 六五六七番 一八四六
振替口座東京三八三四八番

特價六十五錢です

8976



畫報躍進之日本

第六巻 第拾二號

特輯
アメリカの資源と膨張地圖
宣傳倒れのアメリカの陸軍

十二月號 目次

◉表紙『敵鐵條網破壞〇〇高地に決死の突擊を敢行する小笠原部隊の勇士』南支戰線（多色刷）……
◉『アメリカ合衆國の資源と膨張』（多色刷）……
◉『危機迫るモスクワ』（多色刷）二頁……
◉大陸漫畫『人種さまざま』陸黃石筆（多色刷）……

グラビヤ

◉『聖上、英靈に御親拜』……
◉『電擊組閣完了、東條新內閣成立す』……
◉『三笠宮殿下御成婚』……
◉『皇軍突如舊黃河を渡河進擊鄭州を奪ふ』（二頁）……
◉『宣傳倒れの米陸軍、歷たる軍紀の弛緩』（二頁）……
◉『忽ち剝がされた紳士國の假面、英國を信じた國々の末路』……
◉『畏し高松宮殿下の令旨、第十二回明治神宮國民體育大會開く』……
◉同『今ぞ競ふ敢鬪譜』……
◉『大空翔ける若鷲、鎬を削る機械化部隊、學徒聯合野外演習』……
◉『隙なし實戰の備、今年度防空演習』……
◉『獨ソ戰線特報、ベルリン本社直信第二報』（二頁）……
◉『ソ聯領を空から瞰視する獨伊巨頭』……
◉『重大時局下臨時帝國議會開かる』……
◉『氣比丸機雷に遭難』『佛印カンボチヤ王戴冠式』『優秀鑛山勞務者表彰式』……
◉『湛子女王殿下御歸嫁』『新外相外交團を初接見』『中亞橫斷鐵道調査會發會式』『豐公參朝行列』……
◉『近東に伸びる英の爪牙、アフガンの危機、英ソの壓力、北イランに叛亂勃發』……
◉『凄絕、伊英の海空戰、英主力艦大損傷、獨潛艦英航空母艦擊沈』……
◉『中華民國商賈往來、露天商人風景』……
◉『血迷へるパナマの敵性、われを「好しからざる人種」と烙印』、『米アフリカ基地を狙ふ、佛ダカールの防備增强』、『ペタン首席自ら人質、反獨テロ對策に悲壯な決意』……

記事

◉南方前進基地臺灣……臺灣總督海軍大將 長谷川清
◉日米の危機と國民の覺悟……陸軍少將 岡本清福
◉皇國の興廢まさに今日にあり……海軍大佐 平出英夫
◉常に備えよ國土防衞……防衞司令部總參謀長 陸軍中將 河邊虎四郎
◉近代戰と空襲について……內務次官 湯澤三千男
◉ドイツイタリの婦人界……山田わか
◉年末の經濟界と一般の心得……中外商業記者 田中彌十郎
◉時局小說『南方指導者』……守安新二郎
◉新體制お伽話（土屋英麿文）……東京マンガ社同人

石油の一滴血の一滴

わが海軍の燃料對策について

內閣情報局第五部
第三課長海軍機關中佐 上田俊夫

わが海軍においては軍用燃料の量的並びに質的の自給自足を目標とし過去數十年來先覺者が並々ならぬ苦心研究を續けて來たし、またその成果を基礎として今日燃料の研究に携はつてゐる人々も、製造に從事する者もさらにより以上心魂を打込んで本當に眞劍な工夫努力を重ねてゐるのであつて、適切な燃料政策の實施に當り撓まず屈せず新しい研究實驗を行ひ、且つ技術を工業化するなど萬全を期してをるといふだけを申上げておきたい。

一口に燃料といふが軍艦や驅逐艦の汽罐に焚く重油もあれば潜水艦が水上を走る時使ふ油もあれば飛行機にはその性能に適した特別の揮發油が必要である、その他艦內の工業用であるとか、炊事用などいろ〳〵あり、しかもその一つ一つが用ひどころによつてぴつたりと目的にあてはまる性質を備へてゐなければならぬ、これらの燃料をどういふやうな氣持ちで海軍の將兵が扱つてゐるかといふことを申上げる海軍ではいつも最大戰鬪力を遺憾なく發揮するといふ事が眼目である、同時に何れも戰鬪を交へる以上敵の彈が飛んで來る爆彈が落ちて來ることは素より覺悟の前である、この場合當然考へておかなければならぬ損害や故障に際し立ちどころにこれを復舊するか、又はその部分だけに止まらず外に及ぼさないやうにする、わが皮を切らせたら彼の肉を割く、わが肉を割かせたら彼の骨を斷ち徹底的に敵を擊滅するまで戰鬪力を持ち續けるといふ信念のもとに出來るだけ經濟のことも考へなければならぬ、燃料の使ひ方についての心構へも正にその通りであつてこの點は商船や漁船とは全く今日は趣きが違ふ、が朝野を擧げて熱心に資源愛護、消費節約といふことが唱へられてゐるが私達は士官も船員も海軍に入つたその日からその心構へを官品の尊重、經費、燃料の活用といふ精神により教へ込まれてゐるのであつて、たゞ單に物資が十分でないから節約するといふやうなそんな生やさしいものではなく一塊の石炭、一しづくの石油も戰に勝つためにどういふ風にこれを生かして使はなければならぬかといふこと四六時中研究してゐる。

釜や機械や燃料裝置の管理といつた專門的なことは別として極く卑近な例をとつても軍艦が碇泊してゐるときは舵を取り機械につながつてゐる蒸氣の管、または電線には決して蒸氣も電流も通つてはゐない、元のバルブは必ず嚴重にしめておき元のスイッチは確實に斷ち切られてをる、蒸氣や電流を通せばそれだけ不用の燃料を費すばかりでなく不用の蒸氣を出して置いて若しそこに彈が當れば蒸氣は噴き出し船全體に大きな影響を與へる、要らないところに電流を流して置き若しそこに爆彈が落ちて來れば電線が切れて水災が起るかも知れない、訓練のための訓練ではなく平和の時も碇泊してゐる時も常に一朝事有る場合の用意を整へ戰はないうちにすでに勝ち得るやうな準備をしてゐるのである、世界の海の半分を占める太平洋の眞只中にゐるのだから海水くらゐは使ひ放題だらうなどと考へたら飛んでもない見當違ひである、海水を海から汲上げるにはポンプを使はねばならない、動力を働かせるにはそれだけ燃料が要る、外國の港で石炭を積む時など全く粉炭ばかりの時もある、粉の石炭は罐の中の火床の棧の隙間をどんなに調節しても多少は生のまゝで下の灰受けに落ちてしまふ、この落ちた粉炭は丹念に拾ひ上げてまた罐の中に焚くのである、灰と一緒に海に棄ててしまふやうなことは決してしてゐない、重油一滴こぼしてもこれを糸屑で拭ひ取り火事を起さないやうに纒めて一定のところに仕舞つておき、この次に罐に點火するときに種火として活用する、艦內の何處をお歩きになつても蒸氣管や電線の肌があらはに出てゐるやうなことは見當ぬ、以上極めて手近な一、二の例をあげたに過ぎぬがこれは直接その仕事に携はつてをる機關員や整備員だけが心がけてゐるのではなく艦內擧つてこれに力を協せ、また司令官から一兵に至るまで縱も橫も燃料活用といふことに頭を絞つてゐるのである、これ皆皇國の內外の情勢に考へ極度に燃料を尊重し活用し最少の勞力で最大の效果を發揮し更に進んではわが國の自存自衞を完うし大東亜共榮圏の途を切拓かうとす聖業を完遂するため國防の一翼を擔ふ海軍軍人として當然の心意氣にほかならぬことを御諒得願ひたい。

モスコー市街瞰圖

上、有名なモスクワ市内宮殿リムレク市ワクスモ
街市ワクスモため眺りよ上塔キリペ。ン

危機迫るモスクワ市

強力なドイツ軍の包圍攻撃の下にもはや陥落も時間と目されてゐるが、モスクワ市は千百四十七年ドリゴルキ公が今のクレムリン宮の所に市街を建設したもので、千七百〇三年ピョトル大帝が今のレーニングラード市に遷都するまで、即ち千四百廿六年以來首都であつたが、その後も歴代の戴冠式或は大葬は常に此所で行はれてゐた。革命後は赤色ソ聯の首府となつて共産主義の大本山の所在地となつてゐることは人も知るところだ。

モスクワ市はオカ河の支流モスクワ河に跨つて綏漫な中央平原に位置して居り、十五世紀から漸次市としての體裁を具へて來、クレムリンの城壁も完成したが、尚木造家屋が大部分であつた。有名な千八百十二年のナポレオン戦爭の大火後は石造家屋が多くなつて、西歐都市的の外觀を呈するに至つた。市街はローマの如く七丘陵上に立つて、クレムリンを中心にして放射狀的、同心圓的街路が成つてゐる。鐵道は放射狀に全露に通じて十一線を有し、又中歐との航空路も開かれ、又運河によつて、バルティック海、黑海、カピス海とも舟運に依つて結ばれて居り、農業を初め工業の中心として、特に最近は軍事工業都市として發達してゐる。人口は革命前二百萬を突發してゐたが、革命後減少し、近來再び急増して、千九百三十三年には三百七十萬と云はれてゐる。

右、左方に見える河はモスクワ河、
前方の建物はクレムリン宮

クレムリン宮殿

『クレムリ』とは舊露國各地の都市の城塞部分の名稱であるが、モスクワにある『クレムリ』轉じて宮殿の名稱となつたものと思はれる。同宮殿は十六世紀にイヴアン三世が創建したもので、三角形の敷地に建てられ外周を繞る城壁の高さは二十米に達し、十九の塔五の城門が設けられてゐる。その所在はモスクワ市の殆ど中心部モスクワ河の曲流部の小丘上にあつて全市を威壓する樣にそゝり立ち宮殿の建物は二階建、金色の圓頂は六十米の高さに聳へ、七百の大小の室は輪奐の美を極めてゐる。城内には基督昇天修道院やイヴアン大帝の鐘樓、或は世界一の巨鐘などがあり附近の寺院廣場には歴代の戴冠式が行はれたウスペンスキー寺院その他がある。城外東側の赤色廣場にはレーニン廟がある、此所は昔刑場であつたといふ。

右、モスクワ市の繁華街サドヤ・スパツスカヤ街

ワクスモたれさ彩迷

下左の（軍將冬）雪たし待朋の衆民聯ソ
の軍獨はワクスモ都首くな斐甲のそも讃援
スモ　がるゐてれさ曝に擊攻な大强の斷不
ワク市の中心地赤の廣に場はにやざかはな迷
彩が施されてゐる。

宣傳倒れの米陸軍

歴たる軍紀の弛緩

アメリカ陸軍の損充計畫は鳴り物入りの宣傳にも拘らず車事專門家筋へ、各方面から入つた情報を綜合するに未だ極めて劣弱な事は蔽ふべくもない、卽ち歐洲有力軍事通筋の間に最近定説とされてゐるところによれば、アメリカ陸軍は將校の無能なこと裝備、戰術の舊式幼稚な點にありとされ、去る八月末アメリカ第七軍管區で大規模の演習が行はれた際にも、軍司令官リカードソン少將はその講評において右演習の缺點を自認してゐる、しかして當地軍事通筋の暴露によるとアメリカ軍指揮官は大部隊の指揮能力に乏しく、且つその戰術には現在なほ先進各國陸軍に遙かに遲れてゐる。

殊に空軍と地上部隊の共同作戰の如きは全く稚拙で、聯隊長の平均年齢は六十代といふ驚くべき實情にあり、しかも最近の急激な軍隊增加による將校不足の結果、士官學校を卒業したばかりの若過ぎる少尉が大佐、中佐の任務を受持たされ、肝腎の中堅層はガラ空きといふ有樣だ去る八月陸軍に檢定局なるものを設置し大佐級將校一千五百名の能力再試驗を行つたところ第一線に役立つ程度の合格者は僅か三百名に過ぎなかつたといはれる。

軍紀の弛緩及び士氣の不振も甚だしく演習中の死傷者が極めて多いことは演習が實戰的に行はれるためではなくして訓練不足と兵士の惡度が不眞目なことに起因してゐり、去る九月十九日の南部における演習に飛行事故が發生し八名の死者を出した如きはその適例で、原因は操縱士の訓練不足によること明らかである。軍紀に關する犯罪數も少からず。陸軍監獄は、所でも少からず。陸軍監獄は、いたる處抗命罪に基づく投獄者で滿員と云はれ最近テキサス州その他數個所で徵募兵が暴動破獄を企てた例もあり、特に一ヶ年の兵役が二ヶ年に延長されたことは壯丁の不滿の種となつてゐる。ルーズヴェルト大統領はかゝる軍紀の向上を圖らず百四十萬の徵募兵のうち廿萬だけをクリスマス以前に歸還せしめることゝなつたが今度はその選に洩れる者の不平が昂まるであらうと懸念されてゐる。陸軍機部長官に任命し士氣の向上を圖らず勉緩を是正するため最近フレデリック・オスボーン代將を軍機部長官に任命し士氣の向上を圖らないとしてゐるが、マーシャル陸軍參謀長も「軍隊の士氣が向上しない國民の士氣が擧らないかゝる事實が巷間に洩れることを恐れ「軍事祕密」の名において言論機關に對し事實上の檢閲を行つてゐる。

裝備の劣弱なことも過般ビルドエ氏議員とルズヴェルト大統領とが現在の戰爭時の舊式なもの多く高射砲なども同樣でアメリカの現有兵器は幼稚を極め戰車の如きは前大戰當時の舊式なもの多く高射砲なども同樣でアメリカ政府は軍事生産力增大を宣傳してゐるが現在のところ遲々として進まぬことは常に議會始め各方面の國內問題となつてゐり、對英對ソ對蒋援助は掛け聲のみで到底手が廻らぬ實情でその實質は頗る貧弱といはれる。

米陸軍首脳部（左より）ハルゼー海軍作戰部長。ドルーマン大統領。ハーリー國務長官。ジョンソン陸軍長官。マーシャル參謀總長。ニミツ太平洋艦隊司令長官（前列の戰士）

モルガンソン財務長官と英國の巨頭

上、ハリファクス駐米英大使と談話するモルガンソン財務長官（右）

羅馬活躍の大使村野

上、ハリファクス駐米英大使と談話するモルガンソン財務長官（右）

落下傘部隊に自轉車配備

右、米海軍航空部隊の落下傘降下。中央、自轉車を配備した落下傘部隊の新兵器。

戰車逐撃タンク

右、最近米陸軍で完成した戰車逐撃砲。下、戰車逐撃砲の射程は高に時間を要するものである。

陸上の決死着水

左、下、去る五月十八日カリフォルニア州上空で翼を失つた中型海軍豫備少尉操縱の機が附近の水へ突然突込んでしまつた。中央、水中へ突入した機上の少尉は首を全部出して周囲を見廻し、水面に出て泳ぎ始めたが、肩に負傷した模樣で苦しそうに見えた。

渡河演習

右、米陸軍では去る七月五日當地に於いて機械化兵團の綜合大演習を行つた。寫眞はカンバスに包んで偵察兵用の自動車渡河後水を拔出す斥候兵。

米陸軍猛訓練

ニュージャーシー州フォート・ディクスにおける第四十四軍團步兵隊の大機動演習。

米陸軍活潑

カリビアン海の米國步哨隊プエトリコの米陸軍第六十五聯隊では猛烈な訓練を開始、非常に備えてゐる。寫眞は同聯隊機關銃隊の夜間演習。

掃除も訓練の中

答片手に物々しくグランドに整列、「掃除始め」の號令を待つ米國の空フ航空士官學校生徒。「ウエスト・ポイント」ランドル

獨ソ戦線特報

第二便

ベルリン＝本社直信

新たな任務を受けて勇躍出發する候機に赫々たる武運を希る獨荒鷲の勇士、東部戦線にて

獨逸機四十四機撃墜の勇士
ヒトホーヘン部隊のレニネルヒ中尉は
その愛機の尾翼に敵機撃墜のマークを付
して戦友と功を競つてゐる

右下、迅速なる傷兵の看護
東部ソ聯戦線に電撃的に進軍するドイツ親衛隊員を迅速に救護する壯烈なニュース。かくて部隊は休む事なく進撃する。

左下、敢果獨空軍の攻撃に敢なく殘骸を曝らすソ聯エス・ベー機

上　東部戦線へ！　東部戦線へ！
退却するソ聯軍の意味のない焦土抗戦に哀れ燃え續ける村落を衝いて東部へ東部へ！と進撃は續けられ、工兵隊はタンク隊の通過の爲めに架橋工事が初められた。

中上　獨尖兵の殘敵掃蕩
東部戦線占領部落殘敵を掃蕩する獨兵

左中　東部の隘路を行くドイツ軍
無限に連續する獨軍部隊は東部へ々々へと、太陽の下、埃の下を進撃する快速！！　モスクワへ二百キロ
スモレンスク、キエフ、クルスクの三方面於て赤軍大殲滅戦を完了した獨軍は各將軍の威力に期待するソ聯英米の豫想を裏切つて果然、南北よりモスクワへ大進撃を開始した。

左下　スモレンスクよりモスクワへ大進撃を開始した獨軍戦車部隊

電擊組閣完了　東條新內閣成立ス

前列右より鈴木國務相・東條首相兼企畫院總裁・第二列井野農相・小泉厚相・相文田橋・相陸・內兼相・第三列岩村法相・相鍋島寺・相鉉兼逓・東條外兼相・第四列岸商相・相拓兼相務國木鈴谷情報局總裁・相山森法制局長官・相藏屋賀・星書記官長官。

統師、國務高度に融合
新內閣の使命眞に重大

十月十七日後繼內閣組織の大命を拜した東條陸相は同日夕刻陸相官邸に歸るや、同官邸を組閣本部としたゞちに組閣に着手し、國際政局緊迫の重大時局下擧國一體の既定國策を完遂すべき態樣を整へるべく、一刻も速かに組閣を完了する決意の下に、急速調の工作を進めたが、重大時局擔當の陸相の確固たる決意は組閣工作に反影して、大命を拜して以來組閣完了まで僅に二十時間、既に十八日午後組閣を完了、かくて第三次近衞內閣退陣の經緯を繞る國際情勢の複雜微妙な推移の中に雄々しくその第一歩を踏出すに至つたが、同日首相官邸に開催の初閣議において東條首相は、帝國不動の國是たる世界平和への寄與のため支那事變の完遂と東亞共榮圏の確立に向つて確乎不拔の決意を固めるべく既定國策の强固なる遂行に關し閣內一致結束の誓ひをなし、閣議散會後內閣記者團との初會見において「政府聲明」を行ひ擧國一體となつて聖業達成に邁進せんとの烈々たる政府の所信を披瀝するとともに、さらにAKのマイクを通じ「大命を拜して」と題する放送をなし、首相自ら率先挺身、不退轉の決意を述べて全國民の信頼と協力を要請した、東條首相が特に現役に列せしめられ陸相と內相とを兼任することとなつたことは、正に新內閣の性格を端的に示現したもので、首相の陸相兼任は最も緊迫を示してゐる現下の國際情勢に對處し政戰兩略一體化の要請に對し更に一歩その充足を進めたものとして注目すされ、愈々緊迫を深める國際環境の變轉に對處べきものとして國民の寄せる期待は大きい、一方東條首相の內相兼任は戰時國策の遂行に萬全を期する上に、また國內治安確保など多面にわたる內務行政の所管が國民生活と直接關係するところが多いだけに國民の關心も深甚である。

かく國民の期待と關心を集めて東條新內閣は發足したが、新內閣の下政治、經濟、文化等あらゆる國家活動の部面において眞の國防國家體制の確立に向つて逞しい諸施策が早急活潑に展開さるべく、率先國民の先頭に立つ鉄石の意志とともに國政變理の新內閣の使命はまた重大である。

ソ聯側から見た獨ソ戰線

そがる居てへ支もく辛な攻猛の軍獨は軍赤るす守死な-ドーラグンニレ、下たつ至にられら見と題問の間時に既は落陥の士兵軍赤る守な地陣に中るす發炸彈瓦の軍獨るけ於に地某郊近市レは眞寫便船滿横—港桑　線有港桑—青紐　逓電線無青紐——ワクスモ

ソ聯領を空から凝視する獨伊兩巨頭

五でま日九らか日五廿月八る去は相首ニーリソムと統總ーラトヒし察視な線戰ソ對らか空々屋てつ伴相、中談會要重たつ互に間日飯横るれ溢志闘の相首ムと(方先)統總るけおに上機は眞寫、がたトツヒ端左頭先(左眞寫)たし察視な線戰てつ立逓頭巨兩りよれそ相首ニーリソツム目人三、統總ーラ

下、炎上するゲイヤシマ地區某村落に突入する獨先鋒戰車隊

上、獨機の猛爆に炎上するレニングラード市

みんなにもかも新體制――昔々のかたり草お伽話も、科學する子供の現代には通用しません。非科學的な古いお話をすると子供に笑れます(そんな話おかしくて聞かれないよ)と言はれます。ではこれからのお話はどんな風にしますか、さてこれは標本です、次の話に大いに血や肉をつけておもしろくしてどしどし御利用下さいませ(筆者)。

おばすて山

大事なおばあさんを山に捨てたなどといふ道德を無視し、日本古來の敬老思想と、家族主義の美點を破壞するやうな「信州おばすて山」の話も禁止の部に入るべきであつて、改訂された「おばすて山」は次のやうになりませう。

信州のおばすて山の麓に、太郎吉といふ青年がありました。村の模範青年で常に村のため、縣のため、國のために盡してゐました。

ある年雨が多くて河水が氾濫し田の稻がすつかり不作になつて、この分では秋には村の者が一粒の米もたべられないだらうと、村人は不作の田を眺めて青い顏をしてゐました。

村人は米がないので、なるべく家の人間の口數をへらそうと考へて子供を他國へ稼ぎに出したり、老人を他國や親類にあづけたりしました。ある日、太郎吉は九十歳になるおばあさんを背中におぶつて一人もくく〳〵おばすて山へ登つて行きました。

それを眺めて村人は、「太郎吉さんも親孝行なんだが、食はずには生きて行かれないので、おばさんを山に捨てに行つた、困つたことだ、あんなことを村の青年がみんなやり出したら…」と噂し合ひました。それをきいた村の巡査は「それは聞きずてならない話だ、いくら貧乏でも肉親の者を捨てる奴は、殺人も同樣だ、よし山を下りて來たら捕えてやろう」

とブン〳〵怒つて山の麓で待つてゐました。

一方、山に入つた太郎吉は、九十歳になるおばさんから今から八十年程前の凶作年にこの附近の者が米がなくて代用食にしたといふ「どんぐり」「山栗」「推の實」「笹の粉」のあるところを教つて、それを山ほど袋に入れて、老姥と大ニコ〳〵で山を下つて來ました。

これには巡査も口あんぐりの態で、むしろその孝行を賞讃し、全村民を集めてその翌日から山の中の寶を集めさせ、この村は米がなくも代用食で借金一文せず立派にやつて行きました。

花咲爺

一億一心――殊に隣同志は「となりぐみ精神」をしつかり銃後にかためて仲よくしなくてはいけないのに、隣同志で正直爺さんと慾深爺さんで角つき合つてゐてはいけない。だからあのお話はもう現代には通用しません。

現代の花咲爺さんのお話は次のやうになりました。

ある日、忠作さんが犬を連れて田甫道を行くと急に犬が止まつてしまつたのでおかしいなと、ここを掘つてみました。すると出たわ出たわ、古錢がざくざくと現れました。忠作さんは早速それを全部獻金しました。次の日隣家の孝作さんがその犬を連れて山へ行きましたすると、犬がまた止まりましたので、そこを掘つてみました。すると出たわ、出たわ、石炭礦が――そこで孝作さんは村人をみんな集めて村の共有石炭山にしました。だがこの村の農人の忠犬ポチはフトした病で死んでしまひました、忠作さんと孝作さんは忠犬ポチの墓を山の上に立ててやりました。そして毎年櫻が咲く頃になるとこの二人の老人は花の咲く下でポチのために供養の踊りを舞つてやりました。

石炭山は年々大きな礦山になつて行きましたメデタシ〳〵。

カチカチ山

ある日、うさぎが山から下りて來てフラフラと海岸の松原まで出て行きました。すると亀もまた砂濱に遊んでゐた亀がフラフラと山の方へ行つてみたくなつて松原近くまでやつて來ました。

兎「おや、亀さんお前さんこんな處まで來て子供にでも見つかると捕えられますよ」

亀「さういふ兎さんこそ、こんな平地へ出て來て人間に見つかると追ひかけられますよ」

兎「有難たう、處で亀さん私達の祖先は昔カチカチ山で喧嘩したさうですが、私達は仲よくしませうよ」

亀「さうですとも、私達は仲よくしてお國のためにつくしませう、時にあなたはこの戰爭時代に何か名案ありますか」

兎「私も日本の兎ですよ大いに考へてゐますよ、雪が降つて地上が一面まつ白になつたら、軍用兎として大いに活躍する考へです」

亀「それはいいですね、白兎が白雪の世界には全くおあつらえ向きのカムフラヂュですからね…」

兎「ところであなたは…」

亀「私は、海軍の方へつくしますよ、まづ我々は敵の機雷を片つぱし破壞します。」

兎「すごいですね、すると自爆ですね」

亀「さうですよ、その位の覺悟がなくては戰爭にカチカチ山になりませんよ」

兎「ハハハその通りですその意氣〳〵」

浦島太郎

浦島太郎が龍宮のお姫さんの處へ行つて遊んで來たといふあの話も全く變です。あれは南洋か關印の方へ行つて來たのでせう。即ち漁に出て暴風雨にやられて船を流された漁師の浦島太郎はどん〳〵南へ南へと行つてある島に到着した。

その島は女王樣の天下をとつてゐる國で女王樣はこの日本からの珍客を丁寧にもてなしたのである。そして三十年ばかしたつて日本へかへることになつたが歸途も又中々舟が北航せず長いことかかつて日本へ戻つて來たのであるそのため長い航路ですつかり變や髯がのびてしまつて、老人のやうに見えたのです。

さてこれは笑ひ話ですが――この浦島太郎が南洋からのかへり道で舟を曳いて行く亀とこんな話をしたのです。

(おやあれは何んだえー)と海中を行く怪物をみつけて叫んだすると亀が言つた。

(浦島さんあれは潜水艦といふものですよ)

(センスイカン…三十年ばかし文明國を離れてゐる中に妙なものが出來たね)

(それ處ではありませんよ、日本にはもつともつと新兵器がたくさんあつて、もし太平洋に戰爭でもおきたら、世界中がアッとおどろく海底の新武器が出動しますよ)

(君は見たかね…)

(見ましたが、サカナの中にもスパイがゐますからウツカリ言えませんよ)

と亀は言ひました。

漫畫　センバ太郎
牧　とらを
清水はじめ